

# 実践報告

## 基本プラットホームの実践

発達障害支援者向けセミナー  
2022.2.11

帝塚山大学 心理学部  
式部 陽子

1

### 基本プラットホームに基づくプログラム 実施の背景

2006年  
～

- ・県発達障害者支援センター 井上雅彦先生のプログラムの短縮版PT:「家庭療育支援講座」
- ・市障害福祉課等の保健師を中心に実施(母子保健事業後フォローとして)

2009年  
～

- ・市立発達支援センター 開設
- ・現在、「家庭療育支援講座」は幼児期(就学前)対象のPTとして定着

2015年  
～

- ・学齢期対象の「基本プラットホーム」に準じた短縮版プログラム
- ・2015～2016年度は発表者が講師を担い、市スタッフがファシリテーター
- ・2017年度～市スタッフのみで実施、発表者はSVとして参加(現在は主にフォロー回)
- ・2019年度「発達が気になる子どものペアレント・トレーニング マニュアルブック」(JSPS科  
研費 JP16K04830 式部陽子編集・岩坂英巳監修) 市の実践をマニュアルに
- ・2020年度(令和元年度障害者総合福祉推進事業) 実践ガイドブック自治体実施例として
- ・2021年度(令和二年度障害者総合福祉推進事業) 支援者用マニュアル

2

## プログラム概要

対象	発達気になる小学1～6年生の子どもの保護者 子ども:未診断も含む(ある程度、ことばでのやりとりができること) 保護者:グループワークでの話し合いが負担にならないこと
回数・時間	隔週 全6回(約3か月) 午前10時～12時(2時間)
場所	市の施設の会議室
人数	1グループ5～6名 全体で 2～3グループ
実施者	心理師・士、精神保健福祉士、保健師、教員 OB など 全体進行・講義担当1名、グループのファシリテーター1名、記録・補助1名
参加費	無料
託児	あり(参加者の費用負担なし)
評価	CES-D, PNPS, ECBI 事後アンケート(記述式:プログラム満足度、保護者の感想)、スタッフ記録

## プログラム内容

	講義・ワークショップ型学習	演習・ロールプレイ・ホームワーク
第1回	オリエンテーション 「発達気になる子どもとペアレント・トレーニング」	ミニワーク「子どもと私の <b>良いところ探し</b> 」 ホームワーク① 「いっばい <b>ほめようシート</b> 」
第2回	「子どもの行動を観察して3つに分けよう」 <b>子どもの行動の3つのタイプ分け</b>	演習シート① ほめる ロールプレイ① 上手な <b>ほめ方</b> を練習しよう ホームワーク② <b>行動の3つのタイプ分け</b>
第3回	「子どもの行動のしくみを理解しよう」 <b>行動の理解(ABC分析)</b>	演習② <b>行動のABC</b> ホームワーク③ <b>行動のABCシート</b>
第4回	「楽しくほめよう -スペシャルタイムと <b>環境調整</b> -」	演習シート③ <b>環境調整</b> ホームワーク④ <b>スペシャルタイム</b>
第5回	「子どもが達成しやすい指示を出そう」 <b>子どもが達成しやすい指示</b> の出し方	演習シート④ <b>子どもが達成しやすい指示</b> ロールプレイ② <b>伝え方(CCQ、25%ルール)</b> ホームワーク⑤ <b>伝え方ふりかえりシート</b>
第6回	「 <b>待ってからほめよう</b> -上手な注目の外し方-」 子どもの不適切な行動への注目を外し、 待ってからほめることを学ぶ	演習⑤ 注目を外し、 <b>待ってからほめる</b> ロールプレイ③ <b>待ってからほめる</b>

参考「ペアレント・トレーニング実践ガイドブック」

## フォローアップ(例)

- 毎年6月に開催
- 過去修了者全員に案内
- 2時間程度

### 【内容例】

- 講座の振り返り
- 参加者の事前アンケートに基づくミニ講座
- 良いところ探し
- 修了後の子どもの様子、家庭でのかかわり
- 参加者同士で聞いてみたいこと(思春期のかかわり方、学校とのつきあい方、きょうだいとの関係、など)

1. 講座で学んだこと  
 ①子どもの特性、得意と苦手を知ること  
 ②子どもの行動には必ず理由があること  
 ③良いところを探すこと、ほめることを続けること  
 ④環境調整  
 ⑤声かけや指示のしかたを子どもにあわせて工夫してみること

2. 思春期の特徴  
 「荷重増」「おしゃくしゃ」  
 「まだ子どもだけど、一人の大人として扱ってほしい」  
 甘え、反抗、自立…  
 ネットやゲーム…

3. かかわりのコツ  
 ・見方を変える リフレーミング ネガポジ変換  
 ・当たり前にできていることを見直してみる  
 ・予奪する(いましていることは、とりあえず認める)  
 ・話し合える関係をつくる(話し合うことがプラスの結果になるように)  
 ・妥協点を見つける(大人がモデルを見せることも大切)  
 ・ほめ方、認め方の工夫(頼りにされる、認められる、役に立てる経験)

4. 学校との付き合い方  
 ・中学校(義務教育)  
 ・高校(選択制が広がる、子どもに合った環境や学び方)  
 ・「学校に行きたくない」「行きたいけど行けない」を理解する  
 感覚の過敏さや判断の多さ、学習量の多さ、処理が追いつかない、  
 クラスメイトとの会話ややりとり、先生との関係など…

5. きょうだいとの関係  
 ・それぞれの得意・不得意  
 ・問題が起こりやすい状況を分析…物理的に問題が起こりにくい工夫  
 ・喧嘩していないとき、おだやかに過ごしているときにプラスの結果が得るように

ミニ講座のレジュメ(例)

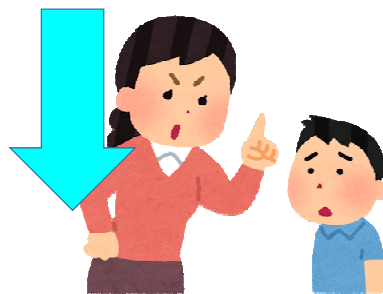
5

## 実施の効果



抑うつ状態  
個人差が大きい

個別の配慮や  
グループでのフォロー  
に活用



養育行動の変化  
肯定的養育行動 有意差なし  
否定的養育行動 ↓減少

特に「過干渉」と、  
「厳しい叱責・体罰」が減少



子どもの問題行動の変化  
子の問題行動の頻度 ↓減少  
親が問題だと答えた数 ↓減少

問題行動が頻度が減り、同じ  
問題行動であっても親が問題  
と思わなくなった<sup>6</sup>

## 参加者アンケート&スタッフの声

### 参加者

- 子育ての不安や孤立感が減った
- 地域の情報が得られた
- 自身が褒められてうれしかった
- 子どもの変化への気づきを得た
- イライラや落ち込みが減った
- 家族から「笑顔が増えた」と言われた
- 子どもが可愛く思えるようになった
- もっと地域で広めてほしい

### 支援者(スタッフ)

- ペアトレで学んだ知識を個別相談に活かすことができる
- グループワークの話(実例)が、他の保護者の相談を受けるときに参考になる
- スタッフの親理解につながる
- 家族支援の選択肢が増える
- 問題が落ち着いて個別相談に良い影響がみられたり、個別相談を一旦終了する人もいる

7

## 今後の課題

### 【事業の継続】

- 参加者の募集・選定
- 人事異動による引継ぎ、事業としての予算継続
- スタッフの負担感の軽減(打合せ、準備、振り返り、欠席者へのフォローなど)

### 【支援者(スタッフ)養成】

- 新しいスタッフの育成(講義のコツやファシリテーターの専門性を段階的に学ぶ)
- 定期的に助言を受けられる機会の確保

### 【今後の展開】

- 地域の他の機関への周知、運営ノウハウの伝達
- オンライン、思春期、父親のPTなど、さまざまなニーズへの対応

### 【効果検証】

- 地域における基本プラットフォームに基づくPTの効果に関するデータの蓄積

8

## おわりに

- 基本プラットフォームに基づくプログラムは、  
専門プログラムで大切にされてきたエッセンスを抽出し、  
地域の支援者が実施しやすいように、  
参加する保護者が参加しやすく & PTの大事な部分が伝わるように、  
地域でのPTの広がりを願って開発されてきたプログラム
- コアエレメントは、すべてのライフステージの発達障害支援において  
大切な要素を含んでいる
- PTを地域で継続して実施することで、親と子、支援者、地域が共に育つ